

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	<p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、生活指導支援員といった専門スタッフとの連携により、組織的な見守り体制を構築している。</p> <p>港区の特性として、生徒のスマートフォン使用時間が全国平均と比較して極めて長い傾向にある。SNS 上での不適切なやり取りや依存的傾向が、現実の人間関係におけるストレスやトラブルの引き金となる懸念がある。ICT 活用のマナー指導や感情コントロールを学ぶ未然防止教育を連動させ、継続的に実施していく必要がある。</p>
② いじめの状況等	<p>事案の認知後は、速やかな対応を実施し、講演等も通じて、規範意識の向上を図った。また、スマートフォンの使い方についても実施したことで、生徒一人ひとりが自身の言動を見直す機会を創出できた。アンケートが有効に機能し、潜在化しやすいいじめを表面化させ、早期解決につなげられた点は大きい。</p> <p>認知された事案については解消に向かってはいるが、SNS 上のトラブルは教職員の目に届かないところで深刻化しやすい。今後もアンケートの継続的な実施に加え、「いじめを許さない」という雰囲気を作れるような集団づくりや、家庭と連携した利用ルール作りを推進していく必要がある。</p>
③ 中学校における不登校の状況等	<p>教室に入ることが困難な生徒に対し、相談室や保健室、教育支援センター等を活用した別室登校を実施しており、不登校は改善傾向にある。また「スタディサプリ」を活用した学習支援を導入した。これにより、不登校傾向にある生徒の学習機会を確保し、個々のペースに合わせた支援体制を整えた。</p> <p>不登校率の改善が急務であり、より手厚い個別支援が必要である。そのため、校内スペシャルサポートルームを設置し、専任の支援員を配置する。これにより、不登校生徒の居場所づくりと学習支援を両立させることで、不登校率の低減と社会的自立の促進を図っていく。</p>